

















先に声をかけたのが、総料理長の藤内宏次郎氏。 愛媛・松山、焼物の町とされる砥部の文化風土を ソフィスティケートされた中に、瀬戸内に面した 躍しながら2010年に宿を開業。その際に真っ 二人は小学校の同級生。ここにも不思議なケミ 宿が形にしようとしているのは、土地の魅力。

来、のびやかな空間に魅せられ実業家として活 が初めて。15年前、この土地を偶然見かけて以 驚きはさらに続く。オーナーはホテルビジネス

似ているようでいて、決してどこにもない。こん ろにあるということに心から驚かされる。 な場所が、松山市内から車でわずか30分のとこ 春には満開の桜が咲き誇り、日本の四季の美し ロッパのような異国情緒がひそむ。それが一変、 湖水に寄りそうようにたたずむ風情には、ヨー 有な存在として味蕾に深く記憶されている。 ベルジュ」で味わい尽くした食の数々は、言葉では さをしみじみと実感することとなる。どこかに 表現できないほど鮮やかで、芳潤で、力強く、稀 まう自分がいる。それほどまでに、『TOBEオー くは、どこで食事をしても感動しなくなってし 空間もまたしかり。端正な群峰を借景にした この宿は罪な場所だ。滞在から戻ってしばら







ゾート内のスパ体験もいいだろう。ゆっくりと過

かな余韻と深い感動の中、フィナーレへと向かう。 ぎていく愉悦の時間は、美しい音楽のように静 に。軽やかなソースはフレンチの領分だが、どこか

に日本料理の滋味も感じる。すべてが満たされ、

瀬戸内海の恵みと、砥部の里山の育みがひと皿 敷地内で育ったみずみずしいオーガニック野菜。

無理も無駄もない完璧な世界は、シンフォニーの 調和することによるなめらかで心地よい味わい。

ょうに美しく、共鳴しあう。

の数々だ。うちわエビ、アコウなど旬の魚介類に、

その結晶が、藤内総料理長がつむぎ出す美食

にまでこだわりを見せている。 感じさせる体験をゲストに提供することに細部

在中の楽しみも尽きない。よりリラックスした 良質な室内着や履き心地のいいスリッパまで。 細部にこそ上質さを感じるもてなしに、このリ れたドリップで淹れるウェルメイドなコーヒー、 いのであれば、技術力あるセラピストによるリ ソートの本質が見えるようだ。 砥部焼の窯元めぐりや、道後温泉探訪など滞

れているからだろうか。食事から戻ると、室内の 鳥たちをあしらった温かみのある調度品が配さ うのは地元の砥部焼のアーティスト・里山人に る。初めての滞在でも、どこか懐かしいように思 がたおやかなラグジュアリー性を醸し出してい さらにバスルームへと続き、レジデンシャルな空間 たい。カラリと扉を開けると、モノトーンに抑え 食。ミニバーのコレクションから、部屋に備えら 温度は快適に保たれ、テーブルにはフルーツと夜 たデザインのリビングと、その奥にベッドルーム、 よる陶器のランプシェードや、素朴な里山の花、

ぜひ2棟ある離れスタイルのヴィラを選んでみ より、プライベートな滞在を望むのであれば、

の時間を刻む。 た中、ゆるりとくつろぐ極上のバスタイムが至福 ぬくもりと共に、夏にはテラスに向けて開け放っ 外にはヨーロッパを思わせる湖水の風景を堪能 が整い、それぞれゆったりとした広さが贅沢だ。 クタイルの浴室もまた秀逸で、冬には床暖房の するテラスが広がり、抜け感のある表情がなん とも居心地のよい空間を演出している。ブラッ

がある。ここにはスタンダードとスイートの客室 てわずか、池を囲む高台に木造の瀟洒な客室棟 ングやラウンジのあるモダンなメイン棟から歩い 『TOBEオーベルジュ』の客室は10室。 ダイニ